



千葉動力車

国鉄闘争の勝利で 労働者の未来切り拓こう

七・一四労働者集会へ 全力結集を(その四)

国鉄分割・民営化から一〇年をへて、決着がつかず先送りされた国鉄闘争をめぐる階級決戦が再び火を噴きはじめています。

(1)不屈の解雇撤回・清算事業
団闘争、(2)労務支配体制の破綻
(3)支配の根幹を揺るがす大政治
問題としての二兆円の国鉄債
務、(4)三島・貨物の経営破綻・
分割・民営化体制の破綻と危機
「平成九年度問題」の焦点化。

それは、結局のところ「第二の分割・民営化」攻撃として、
国労・動労千葉破壊の激化とJ
R鉄道部門一〇万人体制合理化
攻撃となつていっている。

この国鉄決戦の本質は、権力
、JR、JR総連・革マルと国
労、動労千葉との「倒すか倒さ
れるか」の組織攻防戦だ。

分割民営化の 大犯罪

国鉄分割・民営化とは、国鉄
の「再建」でも「改革」でもな
いことは明らかだ。

それは、まさに国鉄の労働組
合をつぶし、国鉄労働者一〇万
人の首を切り、国鉄にかぶせら
れた借金のツケを国民におしつ
け、自民党や財界の連中が、「

国家の名」において、国鉄とい
う、整備新幹線建設や土地売却
にまつわる巨大な利権にとびつ
き、食いものにし、私腹をこや
さんとしてやったことなのだ。

中曽根、亀井、三塚、杉浦の
手で、そして、当時の運輸大臣
橋本、さらに戦犯瀬島龍三を参
謀とし、革マル松崎明を先兵と
して強行された大陰謀、大犯罪
だ。

怒りを 爆発させよう

この分割・民営化の大破産の
責任を国鉄労働者、国民に転化
することなど、断じて許すな！
我々に、「正義と大義」があ
る。一〇年間の闘いの決着をか
け、正々堂々、胸をはって、正
念場の国鉄闘争を闘おう！

そして、幕張有機溶剤問題、
木更津の脱退強要、夏季輸送要
員問題、貨物「フレイト二一」
合理化との対決。日々の職場に
おける闘いが国鉄決戦だ。スト
ライキ体制を堅持しよう！

解雇撤回・清算事業団闘争勝
利、強制配転・登用差別粉砕、
今こそ、一切の悪の元凶である
JR当局 JR総連・革マルと

結託した反動労政を打倒するチ
ヤンス到来だ。怒りを爆発させ
て闘おう！

全労働者 の課題!!

また、この国鉄決戦は全労働
者の課題です。日経連は二千万
失業時代を叫び、昨年五月プロ
ジエクト報告を発表。これは、
雇用制度・賃金制度の破壊を中
心を柱とする大資本攻勢だ。そ
の意味では、分割・民営化の首
切りとは、この攻撃を一〇年先
取りしたものだ。これと闘う国
鉄闘争、清算事業団闘争の存在
を許しておいて、支配階級は全
労働者に対する「分割・民営化
」攻撃 日経連プロジェクト路
線貫徹できない。

つぎに、中曽根臨調・行革、
国家大改造攻撃の柱であった、
国鉄分割・民営化。これが失敗
したということは、これからの
行政改革、規制緩和、地方分権
、さらにはNTTの分割、郵政
民営化など、小沢一郎的な「日
本改造計画」、帝国主義間の競
争、争闘に勝ち抜くための日本

帝国主義の国内政策がつまづく
ということだ。だから敵は、こ
れを突破するために、国鉄労働
運動の解体に全重量をかけてき
ているのだ。

安保沖縄闘争 と共に!!

今日、朝鮮半島をめぐる戦争
情勢の切迫、自衛隊海外派兵の
恒常化、日米安保共同宣言と米
日帝の朝鮮侵略体制づくりが進
む中で、昨年からからの沖縄を先
頭とする反戦・反基地の闘いの
爆発は、この朝鮮侵略戦争策動
と真っ向から対決するものだ。
この新たな安保・沖縄闘争の
労働者決起の中軸は、ほかなら
国鉄闘争支援陣型なのだ。
国鉄闘争、安保・沖縄闘争を
軸とした闘いこそ、「大失業と
戦争の時代」と闘う道そのもの
だ。分割・民営化との闘いがあ
うであったように、まず、い
だしつべの動労千葉が先頭に
立ち、七・一四労働者集会の大
功かちとり、でっかい闘う労働
運動の新しい潮流をつくりだ
う！

七・一四労働者集会

と き 七月一四日(日) 13時から
ところ 東京・御茶ノ水 電通会館
指定列車 千葉駅7番線 十一時二五分発
快速列車最後部に乗車すること
全支部から結集を!